

フォノイコライザーアンプ

NS phonoEQ 2

取扱説明書



20251203

接続について

- ① フォノアンプ本体背面の DC 電源端子に、付属の AC アダプターの DC プラグを差し込みます。DC 電圧は 24V で、「センタープラス」タイプの AC アダプターを使用できます。DC プラグは外径 5.5mmΦ/内径 2.1mmΦ。
- ② レコードプレーヤーの出力を、フォノアンプ本体背面の「Phono In」入力端子に接続します。
- ③ フォノアンプの出力「Line Out」端子から、プリアンプ等のラインレベル入力端子 (CD や Tuner や AUX など) に接続します。
プリアンプの 「Phono」 入力に接続するのではなくことにご注意ください。
- ④ 必要に応じて、レコードプレーヤーの GND 端子とフォノアンプ本体背面の GND 端子をアース線 (別途ご用意ください) で接続します。



オーディオ機器相互の相性や設置状況によっては、アース線を接続しないほうが良い場合もあります。プリアンプのアース端子とフォノアンプ本体のアース端子を接続するかどうかについても同じです。

1 つの方針として、実際に音楽を鳴らしたときにハムノイズが気になった場合にのみ、アース線を接続してハムノイズが軽減されるかどうか試してみる、というのが良いかもしれません。

ご注意： フォノアンプの入力端子にレコードプレーヤーを接続していない状態でオーディオシステムの音量を上げると、大きいハムノイズが出ることがあります。必ずレコードプレーヤーを接続した状態でお使いください。

フォノアンプをオーディオシステムに接続した直後は、音が出ないことがあります。その場合、20 秒ほどレコードの再生音を流すと、音が出るようになります。入力部の直流成分をカットするコンデンサの容量が大きいためと思われます。

MM/MC の切換えについて

レコードプレーヤーに取り付けたカートリッジのタイプに応じて、フォノアンプ前面パネルの「MM/MC」スイッチを切り換えてください。

このスイッチを操作すると、内部のリレースイッチでフォノアンプの増幅度が切り換わります。切換えのときにポップノイズが発生しますので、オーディオシステムの音量を絞った状態で操作してください。

お手持ちの MC 昇圧トランスを使用する場合は、フォノアンプを MM モードに設定してご利用ください。

MM/MC のどちらのモードでも入力インピーダンスは $47K\Omega$ ですが、MC モードでもアンプの入力部分がオペアンプ IC（入力インピーダンスが非常に高い）であるため、低インピーダンスの MC カートリッジを接続してもインピーダンスの不整合などの問題はありません。

主な仕様

RIAA 偏差： 20Hz～20KHz ($\pm 0.2\text{dB}$)

利得： MM 38dB、MC 60dB (1KHz、1V)

入力インピーダンス： $47K\Omega$ (オペアンプの入力インピーダンスが非常に高いため、低インピーダンスの MC カートリッジにも問題なく対応)

残留ノイズ (JIS-A 補正)： MM 0.04mV、MC 0.6mV

最大入力電圧： MM 82mV、MC 6.2mV (1KHz)

搭載オペアンプ： NL8902ANAE2S

サイズ： 幅 17 × 奥行き 12 × 高さ 5.5cm (突起部を除く)

電源： DC 24V (AC アダプター) (センタープラス・タイプ / 外径 5.5mmΦ / 内径 2.1mmΦ)

製造元・連絡先：

〒247-0073

神奈川県 鎌倉市 植木 66-1 コープ鎌倉 513

Email: ns_kobo@nifty.com

NS工房 名取 俊忠